

高校生・大学生およびその親の年代を対象とした ビッグファイブ性格テスト作成の試み

Development of new Big Five personality inventory for high school students, university students, and their parents' generation

河野和明*, 高田琢弘*, 伊藤君男*, 高橋晋也*, 三宅理子*

樋町美華*, 山川香織*, 松尾朗子*, 奥田達也*

Kazuaki KAWANO, Takuhiro TAKADA, Kimio ITO, Shin'ya TAKAHASHI, Riko MIYAKE

Mika HIMACHI, Kaori YAMAKAWA, Akiko MATSUO, Tatsuya OKUDA

正誤表

p.3 9行目

【誤】 同様に在籍学校は, 9カテゴリ

【正】 同様に在籍学校は, 8カテゴリ

p.4 Table 1. 下 因子間相関

【誤】

協調性	.372	.106	.558	
勤勉性	.493	.233	.489	.551

【正】

勤勉性	.372	.106	.558	
協調性	.493	.233	.489	.551

p.8 30行目

【誤】 高校生・親年代間の

【正】 大学生・親年代間の

p.9 17行目

【誤】 $\eta_p^2 = .006$

【正】 $\eta_p^2 = .005$

p.10 Table 4

【誤】

要因名	性格検査	外向性	神経症傾向	開放性	勤勉性	協調性
性	TBF	ns	*	*	ns	*
	TIPI	ns	†	*	ns	ns
	特性語BF	†	ns	*	ns	ns
年代	TBF	*	*	†	†	*
	TIPI	†	*	*	*	ns
	特性語BF	†	*	†	*	ns

【正】

要因名	性格検査	外向性	神経症傾向	開放性	勤勉性	協調性
性	TBF	ns	*	†	ns	*
	TIPI	ns	†	*	ns	ns
	特性語BF	†	ns	*	ns	ns
年代	TBF	*	*	*	†	*
	TIPI	†	*	*	*	ns
	特性語BF	ns	*	†	*	ns

p.10 9-10 行目

【誤】 一方、年代の主効果は3検査において有意もしくは有意傾向であるが、変動の様相は検査間で一貫していなかった。

【正】 一方、年代の主効果は検査間で一貫していなかった。

p.10 14 行目

【誤】 開放性は3検査とも有意な性の主効果を検出し、

【正】 開放性は3検査とも有意もしくは有意傾向の性の主効果を検出し、

p.11 6-7 行目

【誤】 神経症傾向における年代の主効果と開放性における性の主効果であった。

【正】 神経症傾向における年代の主効果であった。

p.11 7-8 行目

【誤】 3検査すべてで有意な効果がなかったと言えるのは外向性と勤勉性における性の主効果であった。

【正】 3検査すべてで有意な効果がなかったと言えるのは勤勉性における性の主効果であった。